



総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。
スポーツくじについてはこちらから

[スポーツくじ理念広報サイト「GROWING」]
<https://www.toto-growing.com/>

スポーツくじ



連載★学校運動部活動の地域展開に取り組むクラブ

認定NPO法人 **日本スポーツアカデミー** (茨城県)

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R7/MM182_academy.PDF

特別企画★スポーツ少年団との連携に取り組むクラブ

特定非営利活動法人 **みやざきArea Activity Academy** (宮城県)

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R7/MM182_AAA.PDF

特別企画★スポーツを通じた介護予防・健康増進に取り組むクラブ

NPO法人 **廿日市スポーツクラブ** (広島県)

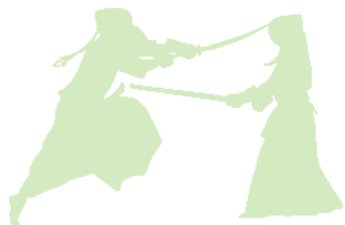
http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R7/MM182_hatsukaichi.PDF

助成金情報 ▶▶▶ [詳細](#)

お知らせ ▶▶▶ [詳細](#)

バックナンバー ▶▶▶ [詳細](#)

全体版 ▶▶▶ [詳細](#)



JSPPO
Japan Sport Association



★本記事の読み上げ動画を作成しました！

忙しく記事を読む時間がない方でも、耳を傾けていただくだけで内容を把握することができるよう、本記事を読み上げた動画を作成しました。移動時間やスキマ時間などにぜひご活用ください！
動画はこちら→<https://youtu.be/E79jgW5TWil>



過去の動画はこちら



連載

★学校運動部活動の地域展開に取り組むクラブ★

認定NPO法人日本スポーツアカデミー
茨城県つくば市

学校運動部活動をめぐっては、少子化による生徒の減少、それに伴う教員数の減少、専門的指導力を持つ教員の不足等により、生徒のニーズに応じた部活動自体が成り立たなくなる現状があります。

文部科学省では、令和5(2023)年から令和7(2025)年までを「改革推進期間」と位置づけ、休日の部活動について、合同部活動や部活動指導員の配置により地域と連携することや、学校外の多様な地域団体が主体となる地域クラブ活動へ移行することについて、地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現をめざすよう各自治体に求めており、総合型クラブにおいても学校運動部活動との連携が期待されています。

そこで今回は、学校運動部活動の地域展開に取り組むクラブを紹介します。

1

クラブ概要

日本スポーツアカデミー(以下、アカデミー)は、旧法人名を「つくばスポーツアカデミー」とし、設立しました。設立のきっかけは陸上競技部を受け持ちたいという陸上競技経験のある教員がつくば市立桜中学校に異動してきたことを受けて、スポーツによる地域社会に波及する好循環を学校という枠から地域社会に生かそうと考えたからです。

平成25(2013)年に設立されたアカデミーは、現在およそ1,000名の会員を有していますが、設立時には行政などの支援を受けず、ゼロからスタートした組織です。法人としての活動拡大に伴い、予算規模も1億円近くまで成長し、常勤スタッフ11名が元気に仕事をしています。

アカデミーの事業は大きく分けて、

スポーツ事業…競技性のある運動カテゴリー(バドミントン、陸上競技など)

ウェルネス事業…競技性のない運動カテゴリー

放課後事業…将来の運動実施率向上を考え子どもたちに多種多様な運動体験を主眼に、放課後児童に関する地域課題の解決を目的としたもの

の三本柱で構成されています。

また、活動の目的は、地域社会の運動実施率向上と、それに併せた人間の健全な育成です。



幅広い年齢層に対応したウェルネス事業



子どもたちの運動体験と放課後児童の地域課題の解決をめざした放課後事業

2

取り組み内容

地域に根ざしたスポーツ活動による好循環

前述のとおり、アカデミーは中学校の部活動から生まれた法人です。近隣地域に素晴らしい影響を与えた部活動をモデルとして、活動を行っています。

そのモデルとしている部活動はこのようなかたちで好循環を生み出しました。

まず、初めに子どもたちの活動に対しての「やるときはやる」といった意識の改革を行いました。すると、その意識に比例するように集団としての結果が出始めました。さらにそれを実感した保護者や顧問の先生がそれぞれの立場でバックアップを開始し、校長をはじめとした学校との協力を深めました。やがて全国大会に毎年行くようになると、近隣地域にて自発的に遠方の大会の活動費の一部を負担してくれるようになるなど、スポーツが部活という小さな枠ではなく地域を巻き込んで成長を遂げたのです。

このように、部活動が参加者だけでなく地域社会にもよい影響を与えてきた点を、地域展開によって可能な限り残していきたいと考え、事業化しています。

地域展開のステップと少年団化

まず地域展開当初は、当アカデミーの職員が学校部活動に外部指導員として参加し、先生方の業務負担を軽減しました。また、※DCAA(洞峰地区文化スポーツ推進協会)にも当アカデミーの職員が協力しました。そのうえで次に進めたのが、部活動の少年団化です。複数の団体が絡むDCAAのような大きな組織は、その設立や維持管理に相応の労力を必要とします。これは総合型クラブの運営と照らし合わせるとイメージしやすいでしょう。一方、小規模な組織であれば、少年団という優れたモデルがあります。そのため、部活動の顧問や外部指導員と協力しながら少年団化を進めています。

※DCAAとは「DOHO Cultural & Athletics Academy」の略。洞峰学園つくば市立谷田部東中学校の部活動を中心に、洞峰学園地域とともに更なる発展を遂げるために地域住民で設立された組織。部活動ごとに「DCAAクラブ」を設置し、外部から専門的な指導者を招き部活動実施日以外の時間に各クラブごとに1回2時間、年間30回程度活動を行っている。

<https://dcaa-club.com/aboutdcaa/>

事業の独自性、少年団と競技志向の融合をめざして

総合型クラブの集まりでは、クラブと少年団を分けて考えることが多いですが、アカデミーでは中学生にスポーツの場を提供するかたちの一つとしてとらえ、法人の枠組みに組み込んでいます。

また、少年団はコミュニティとしての要素が強い一方で、「全国大会出場」をめざすような競技志向の団体へのアプローチも行っています。SAN.AC(アスリートコース)というプログラムを設け、車で片道90分くらいまで範囲を広げ、広域を対象に活動しています。このように複数の中学校と連携し、熱意ある先生方が継続して活躍できる環境づくりを進めています。

見方によっては、法人規模に比べ主体的な活動が少ないように映るかもしれませんが、実はそれが私たちの方針です。主体は国と、中学校の部活動そのものです。アカデミーは、その主体が考えたことを実現するためのツールとして機能することをめざし、日々研鑽^{さん}しています。部活動がもたらしてきたよい点を次世代に引き継ぐため、さまざまな方法を提示し、選択や実行のサポートに注力しています。

指導員は募集してもなかなか集まりませんが、地域内には適任者がいます。そのため、公募よりも部活動のOBOGや関係者を発掘して依頼するほうが確実です。活動を継続していると、中学生がやがて大人になり、指導者になるケースも増えます。アルバイト収入にもなるため喜ばれることが多いです。このように長期的視点を持つことが大切だと考えています。



桜RACING CLUB(桜RC)



活動中の秀峰陸上クラブ

3 事業拡大と組織成長の好循環が生まれることで、社会貢献活動につながる

このように休日の部活動を少年団の組織内に組み込むことで、少年団にも多くのメリットが生まれます。課題としては、会費設定における整合性がありました。

少年団化に限らず、取り組みの効果が見え始めると、自然と相談件数が増えてくると思います。学校から少年団化の相談がくるようになり、それを実現させることも一つですが、法人の枠組みのなかに少年団を入れてあるので少年団の会員は法人の会員となります。このことが、法人にとっても会員獲得の機会となり組織拡大につながります。

また、組織にスタッフが増えると、それぞれのスタッフが持っているスキルを生かす機会が増え、それを基に新たなプログラムをつくり会員が増えると法人の予算規模は大きくなります。そうすることで雇用を可能とする予算ができ、さらに事業規模は大きくなります。

私たちはNPO法人であるので地域社会が必要としている部分を行う社会サービスが法人としてやるべきことであり、地域社会に対して雇用を創出することは一般企業と同様に産業として社会に貢献することにもなります。

加えて、総合型クラブの持続可能なかたちの一つとしてマネタイズを法人経営の核と考えるクラブとして活動することで、資金、人材、後継者不足といった課題解決の一助となると考えます。

4 日々の活動の核となる「地道な地域活動」と有料化への理解促進と付加価値の提供をめざして

一丁目一番地は、地道に地域に根ざした活動を続けることです。部活動に関しては、これまで無料で行っていた活動が有料化することへの理解を得るために、部活動の仕組みが以前と変わってきたことを活動の場にいる保護者等に話し、実際に理解度が深まっていると感じています。

そのうえで、指導の質、練習場所の確保等、払った金額以上の価値を感じてもらうことが、持続可能のカギとなります。教育的意味合いはもちろん、将来使えるライフスキルなど単にスポーツだけでない知識や経験といった付加価値をつけられるかといったことが重要だと考えています。

また、既存の仕組みをモデル化し、再現性のあるシステムとして構築していきます。

認定NPO法人日本スポーツアカデミー 理事長 石渡琢磨

クラブプロフィール

設立年月日 平成25(2013)年9月2日

所在地 茨城県つくば市竹園三丁目18番地2 E棟2階201番

運営 利用会員数:1,000名(令和7年7月現在)、予算規模8,000万円(令和6年度)

特徴 To the next generation!

「スポーツを通して健全で明るい地域社会の持続可能な仕組み作りを行う」

スポーツは「仕事や義務でない気晴らしをする、楽しむ」というのが語源です。

日本スポーツアカデミーでは法人としての「スポーツの定義」を掲げ活動しています。

- スポーツは「健康」という言葉に置き換えることができる
健康とは心身ともに考える
- スポーツはともに生きていく仲間ができる
- スポーツは日常のカテゴリーを超えた人のつながりができる
- スポーツは社会でのコミュニケーションの方法を知ることができる

連絡先 〒305-0032 住所:茨城県つくば市竹園三丁目18番地2 E棟2階201番

TEL:029-886-3227 FAX:029-896-3649

HP:<https://sportsacademynippon.jp/>

E-mail:info@sportsacademynippon.jp



特別企画

★スポーツ少年団と連携しているクラブ★

特定非営利活動法人 みやざきArea Activity Academy 宮崎県宮崎市

総合型クラブが地域に定着し、浸透するためには、地域との一体感の醸成が重要となります。そのために、スポーツ少年団をはじめとする地域のスポーツ団体等と相互扶助の関係を築き、地域社会からの信頼性を確保し、地域に根ざす団体となる必要があります。

そこで今回は、スポーツ少年団と連携し、地域におけるスポーツ推進体制を高めているクラブを紹介します。

1

クラブ概要

- 平成18(2006)年 久峰スポーツクラブとして総合型地域スポーツクラブ設立準備会設立
14名で設立
- 平成19(2007)年 クラブ内陸上教室を久峰陸上クラブとしてスポーツ少年団登録
- 平成20(2008)年 MIYAZAKIうづらaiクラブ設立 会員数150名
- 平成24(2012)年 クラブ内カヌー教室を宮崎カヌージュニアスポーツ少年団として登録
広瀬中学校に陸上同好会を設立
NPO法人化 会員数126名
- 平成26(2014)年 佐土原中学校に陸上同好会を設立
- 令和2(2020)年 事務所移転(事務所賃料削減のため)
・実事務所は持ちつつ、ネット内事務局を構築
・キャッシュレス化
・情報収集伝達方法のネット活用
- 令和5(2023)年 NPO法人みやざきArea Activity Academyに改名 会員数112名
(部活動の地域移行の背景から既存団体・クラブ支援を事業化。
より地域活動をサポート・集約することに明確にすることを目的とした改名)
- 令和7(2025)年 少数化により人手が不足している既存団体の事務局を支援できる体制の構築。
現在、会員団体募集中。5教室 会員数120名

2

取り組み内容

「地域で育つ子どもの選択肢を増やす」という目標を掲げスタート

平成18(2006)年度当初は、宮崎市では総合型地域スポーツクラブの認知度も低く、設立準備をするうえでも基本となる理念や基準を周知し、理解を得るのは大変難しい状況でした。

特に子どもの活動はスポーツ少年団で活動するというイメージが強く、活動のない種目のスポーツの教室を立ち上げて、なじみのないものでした。そして、私たち運営側も行動指針なるものを自らつくるのは難しかったことと、今も使われている宮崎市スポーツ少年団憲章を表に出すことで、当クラブの設立趣旨を理解してもらうことができると判断しました。そこで、単一種目登録であるスポーツ少年団登録を生かして、各競技別スポーツ教室を登録し、当クラブを※育成母集団としました。

クラブを育成母集団とした背景は、子どもにスポーツ活動をさせたくても保護者が忙しく、活動に協力できないという理由で活動に参加させない保護者が目立ったからです。

「地域で育つ子どもの選択肢を増やす」これが大きな目標でしたので、保護者の負担をどう減らせば子どもは活動しやすくなるかを試行錯誤し、クラブが育成母集団となりました。当クラブでは保護者は役員にも会計担当者にもならなくていいのです。スポーツ少年団登録更新手続き等もクラブ事務局がします。他にも利点はありますが、共働きの増え、活動に適している時間帯に家庭にいる保護者が少なくなったという時代の流れもあり、このようなスタイルが受け入れられてきているのだと思います。

※育成母集団とは、日本スポーツ少年団が独自に使用している名称。単位団活動を支える母体となる集団。

陸上競技とカヌー。クラブと学校の連携が生んだ成果

昨今は部活動の地域展開が話題ですが、当クラブでは平成23(2011)年度に久峰陸上クラブに小学生で参加していた児童が中学生になる段階で進学する中学校に陸上競技部がない事例が発生しました。

当時は陸上競技部がないので、陸上競技部のある中学校に転籍するなど、小学6年生で決断するにはハードルの高い事案だと感じました。そこで対象児童が進学する陸上競技部のない中学校に相談に行き、当時の校長先生のご理解のもと「同好会」として登録し、ふだんはそのままクラブで活動し、中体連(中学校体育連盟)の大会には中学校名で参加できるようになりました。のちに全国大会出場選手も輩出し、日本代表になった子もいます。

カヌーも同様です。当時は宮崎では県内どこにも小中学生の活動がありませんでした。現在も小中学校関係なくさまざまな学校から集まり、活動を行っています。このカヌークラブにいた生徒から高校進学の際に、カヌー部のない高校に進学したいがカヌーは続けたいと申し出があり受け入れました。

高校進学はより部活動の内容が専門的になり、やりたい部活と学びたい分野が違う場合があります。片方を諦めるのが当たり前だったのですが、当クラブで活動を続けることで、両立することができました。そして、大人になった今は指導者として関わってくれています。

現在、陸上競技は中学生8名、カヌーは、中学生2名と高校生2名が所属しています。



久峰陸上クラブ
さまざまな学校の生徒児童が集まり活動中(小中学生
合同練習)



宮崎ジュニアカヌークラブ
競技力向上をめざす会員や趣味として参加する会員も
いる。小中高校生が所属

3

ネットやアプリなどを積極活用。 世代を超えてスポーツを続けられる環境づくり

地域になかった活動の選択肢を増やすことができた実感しています。今活動している小中学生から見ると、生まれたときからクラブが当たり前のようにあるといった状況をつくることができています。クラブ活動で伸び伸びと自分の目的に合わせて活動している姿を見るとやっけてよかったと思います。

活動のサポートができる保護者のボランティア登録制度をつくり、子どもと一緒に過ごしたい親のニーズも取り入れ、仕事でなかなか一緒に過ごせない保護者も預けやすい仕組みをつくっています。

その積み重ねと指導者の当クラブの理念の理解もあり、一時期、会員数の減少はありましたが徐々に増えています。このように、クラブ事務局・指導者・参加者・保護者がそれぞれの立場と現状を理解しながら、助け合える関係性ができていると思います。加えて、ネット環境やアプリなどを活用することにより、予算の削減や時間と作業の効率化・負担軽減ができるのはもちろん、それぞれの意見・情報・課題・問題などの共有もしやすくなり、それぞれの立場の方々との距離が近くなりました。

また今後は、スポーツ少年団は、小中高生関係なく参加できるということを広く伝えること、そして、大人になり社会人になってもニーズがあれば受け入れますし、その環境が整っていない場合、受け入れられるようにして活動の幅を広げてきたいと考えています。

4

それぞれの「一歩」を応援するクラブへ

今後、持続可能なクラブ運営のためにも、せっかくご縁のあった会員のニーズを聞き取ることが意識しています。会員それぞれ要望があり、教室参加の目的もさまざまです。競技力向上の会員もいれば、スポーツを純粋に楽しみたい会員もいます。

多様性と言われる時代です。それぞれのニーズを認め合う団体でありたいと思います。私たちはそのときそのときの要望に応えられるように変化していきます。誰かの一歩が扉を開くと信じ、応援していきたいと思っています。



運動サークルうづらキッズ
久峰陸上クラブ指導者と会員がキッズに陸上競技の指導を行い、教室間交流を実施している



宮崎HINATAベースボールクラブ
別々の学校に通う中学生の野球活動を支援するために新設。少年団登録をめざしている

クラブ運営のさらなる向上に向けて安心できるサポート体制の構築

クラブの長年の課題としては、会員の送迎があります。予算をかけずに市民活動レベルでみんなの少しの気遣いと工夫で負担もあまり感じない仕組みづくりができないか模索しています。

例えば、現在クラブボランティアを登録制で運用していますが、保護者のなかには常時練習時に滞在し見学している方もいるので、そういった保護者に送迎ボランティア登録をしてもらい送迎ができないか検討中です。しかし、利用者とボランティア側が安全面や万が一の事故対応、保険の取り扱いなど実際に運用するにはハードルが高い面が多く、実施ができていません。

送迎費用はガソリン代を超えなければ徴収可能なので費用の設定はできています。送迎ボランティア時の保険をクラブ側で持てるなどの仕組みがあるとよいのですが、道半ばです。

「選択肢を増やす」「変わりながら続ける」をモットーに

昨年度より、既存のスポーツ少年団等が活動を続けられるようにするため、当クラブがサポート役となれるよう周知を始めたところです。また、設立当初からの願いだった共生社会の実現をめざし、今年度から障がい者の参加も当たり前のようにできるような環境づくりを実践しています。また、日本スポーツ協会の登録・認証制度「部活動の地域展開タイプ」の認証をもらえるように現在申請中です。

まだまだ道半ばですが、「選択肢を増やす」「変わりながら続ける」をモットーに今後も取り組んでいきます。

特定非営利活動法人みやざきArea Activity Academy 理事長 石川理恵

クラブプロフィール

設立年月日 平成20(2008)年2月11日(平成24年8月28日 法人登記)

所在地 宮崎県宮崎市橘通西5丁目3-22-201

運営 会員数:120名(令和7年7月現在)、予算規模:6,918,230円(令和7年度)

特徴 クラブ自主運営はもちろんですが、他の既存クラブとの連携・協力をしながら、状況やニーズに応じて変容するクラブです。また、あくまでも運営側は市民活動レベルであることをめざし、いつまでも運営側も楽しめるような仕組みづくりを模索しています。

連絡先 〒880-0001 住所:宮崎市橘通西5丁目3-22-201

TEL:0985-86-9321 FAX:0985-86-9322

HP:<https://m-aaa.com/>

E-mail:info@m-aaa.com

特別企画

★スポーツを通じた介護予防・健康増進に取り組むクラブ★

NPO法人^{はつかいち}廿日市スポーツクラブ 広島県廿日市市

総合型クラブの活動は、地域住民へスポーツ活動を促す契機となり、地域住民の健康増進および体力づくりに大きく寄与することができます。また、総合型クラブが地域に根ざし、必要不可欠な団体となるためにも、健康・医療など地域の諸課題を解決する公益的な事業を積極的に行うことが必要となります。

そこで今回は、高齢者向けのプログラム等の実施を通して健康づくりに取り組むクラブを紹介します。

1 年齢や目的に応じた多彩なスポーツ活動

指導者は基本的に外部指導者に委託し、運営経費はすべてを会費で賄う

特定非営利活動法人廿日市スポーツクラブ(以下「当クラブ」)は、平成10(1998)年、地元青少年に活動の場を提供する目的で結成されたサッカークラブ「廿日市FC」がベースとなっています。その後、地域の住民や保育園からの要望もあり、子どもから高齢者まで地域の誰もが気軽に参加できる総合型地域スポーツクラブとして、平成14(2002)年に設立されました。設立後はサッカーをはじめ、子ども向け体操教室、健康づくりプログラムなど、年齢や目的に応じた多彩なスポーツ活動を展開し、現在に至っています。

現在の会員数は667名(成人277名、未成年390名 * 令和7年6月末現在)。サッカー、テニス、バドミントン、ダンス、野球、キッズ体操およびフィットネス(体操、ヨガ、太極拳等)といった幼児から高齢者まで参加できるスポーツプログラムを提供しています。

当クラブの組織は、理事長のほか、副理事、理事および監事の幹部ならびに社員で構成され、各種事務処理については、事務局(事務局長1名)で行っています。指導者は基本的に外部指導者に委託し、教室ごとに会場を設定して運営しています。受託事業や補助を受けることはなく、経費はすべてを会費で賄っています。

2

高齢者向けの健康づくりプログラム

「関節や筋肉にやさしいプログラム」と 「楽しみながら筋力維持を図るプログラム」の2本柱

当クラブでは、地域密着型の総合型スポーツクラブとして設立以来、サッカーやテニス、バドミントンを中心に、子ども向けの体操教室や一般成人向けのクラスを設け展開してきました。しかし、廿日市市においても全国と同様に高齢化が進み、特に65歳以上の人口が年々増加傾向にあり、介護予防や健康寿命延伸が地域課題として浮上しています。そこで、自治体や地域住民からの要請を受け、十数年前から高齢者向けの健康づくりプログラムを、体系的に整備、展開することに取り組んでいます。

このプログラムは「健康維持」「フレイル・ケア（加齢に伴う身体的・認知機能の低下を防ぎ、健康寿命をケア活動）」に加え、「地域交流へのインセンティブ（外部からの刺激）」を主な目的としています。具体的には、主に2つのプログラムを取り入れています。

①「関節や筋肉にやさしいプログラム」ヨガ、ピラティス、バレトンなど

②「楽しみながら筋力維持を図るプログラム」貯筋ステーション、健康フラダンス、太極拳など

プログラムの開始当初は、新設の教室ということもあり、インストラクターや会場の確保に苦労した面もありますが、幸いにも施設管理者の理解や協力もあり、円滑に活動できています。また、令和4(2022)年には、地元・廿日市市と包括連携に関する協定を締結し、地域のスポーツ振興や地域問題について、相互連携、支援などの連携を深め、地域社会の発展に寄与することを目的に、取り組みの充実に努めています。

運動不足の改善になるだけでなく、心身のリフレッシュやストレスも軽減

特に、高齢者向けプログラムとして力を入れているのが、「貯筋ステーション」と「健康フラダンス」「太極拳」です。イスを使ったエクササイズで、ゆったりとした有酸素運動を行います。高い負荷をかけずに無理なく体を整えるので、「使える筋肉」の維持に効果的です。貯筋ステーション（各15～20人程度）は週3回、90分の開催です。健康フラダンス（20人前後）と太極拳（40人前後）は週1回90分の開催です。運動不足の改善になるだけでなく、心身のリフレッシュやストレスの軽減にもつながるプログラムです。

高齢者向け健康づくりプログラムの取り組みについて、会員の皆さまからは、「定期健診で、結果改善など生活習慣病予防ができた」「運動習慣により、転倒などによるケガをしなくなった」と好評を得ています。また、「会員間の絆が深まり、仲間が増え、いろいろな話題に触れる機会が増えた」という声も聞かれ、「孤立防止」や「メンタル・ケア」にも役立ち、プログラム開始当初の目的を達しつつあります。



貯筋ステーションの実施風景



イスを使った負荷の低い運動



ヨガの実施風景



自身の体調に合わせて無理がない範囲で

3

高齢者向けプログラムの課題と今後の展望

「遠隔地での活動強化」「運動習慣意識の醸成」 「医療・福祉分野との連携強化」などをめざして

上記のような声が聞こえるようになった一方で、よいことばかりではありません。遠隔地や小規模での開催など、クラスの新設を要望される声も増えてきました。また、運動習慣がない人へのアプローチを含め、「運動＝予防医療」であるという意識の促進について、自治体や医療機関、地域コミュニティとの連携が必要となってきているのも確かです。

これらの課題を踏まえて、当クラブでは「遠隔地での活動強化」「運動習慣意識の醸成」「医療・福祉分野との連携強化」などを当面の課題・目標ととらえ、対応策の検討を始めています。具体的には、以下のようなテーマで計画を進めています。

- ・定期、不定期な公民館などを活用した「ミニ教室」
- ・簡単な運動などの「動画配信サービス」
- ・サッカーなど子ども向けプログラムでの「家族参加イベント」

また、将来的には、地域包括支援センターや医療機関との連携を強化して、「運動＝予防医療」であるとの認識のもと、健康相談や体力測定と各種プログラムとがリンクできるような仕組みづくりを進めるつもりです。



サッカースクール実施風景
子どもたちの活動に日ごろ運動習慣がない大人たちを誘導し「親子サッカーイベント」も実施

地域の健康インフラとして重要な役目を果たしていきたい

当クラブのような総合型地域スポーツクラブは、今後、ますます「健康インフラ」として重要な存在となるよう期待されている一方で、健康増進に無関心といった層への積極的な働きかけやインストラクターの育成といった課題も散見されます。こうした課題を一つひとつ解決しながら、地域住民の方々の健康づくり、生きがいに寄与していきたいと考えています。

NPO法人廿日市スポーツクラブ事務局長 光成直樹

クラブプロフィール

設立年	平成10(1998)年10月1日(平成14年8月2日 法人登記)
所在地	広島県廿日市市宮園三丁目2-8
運営	会員数:667名(令和7年6月現在)、予算規模:42,000,000円(令和6年度)
特徴	●幅広い世代・種目へ対応 子どもからシニアまで参加できる多彩なプログラムを提供 ●地域社会に根ざした活動 地域のサッカーチーム「廿日市FC」として発足以来、地域のスポーツ振興とまちづくりに貢献。
連絡先	〒738-0035 住所:広島県廿日市市宮園三丁目2-8 TEL:0829-39-4150 FAX:0829-38-1125 HP: https://hatsukaichi-sc.com E-mail:contact@hatsukaichi-fc.com

助成金情報

YMFSスポーツチャレンジ助成2026年度(第20期生)

[実施団体] (公財) ヤマハ発動機スポーツ振興財団

スポーツに関連する幅広い分野で世界の舞台へ大きくはばたく情熱的なチャレンジを応援。
グローバルに活躍することをめざし、高い目標を掲げて取り組んでいるアスリートや指導者、
研究者の活動(体験分野、研究分野)を支援・助成します。

[申込期間]

2025年8月25日(月)～10月31日(金)正午にて入力締切。

申請フォームにて、「電子申請」を行います。

詳しくは以下のページでご確認ください。

<https://www.ymfs.jp/support/>

お知らせ

第79回国民スポーツ大会本大会(わたSHIGA輝く国スポ)の開催

令和7(2025)年9月・10月に滋賀県で第79回国民スポーツ大会本大会(わたSHIGA輝く国スポ)が開催されます。

●開催日程

本会期: 令和7(2025)年9月28日(日)～10月8日(水)

※上記期間の他、会期前実施競技が開催されます。

▼第79回国民スポーツ大会本大会(わたSHIGA輝く国スポ)大会情報はこちら

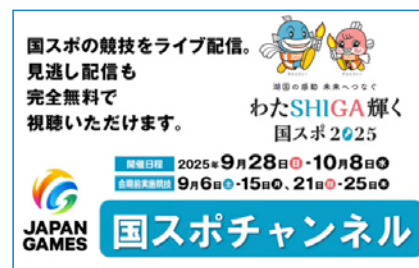
[総合トップ](#) | [国スポ・障スポ 滋賀 2025](#)

●国スポチャンネルにおけるライブ・アーカイブ配信

滋賀大会ではすべての正式種目の決勝戦を中心に、ライブ・アーカイブ配信を行う予定です(一部競技は予選も配信)。ふだん観戦機会がない競技を観戦いただける機会にもなります。ぜひご覧ください。

▼国スポチャンネルサイトはこちら

[国スポチャンネル - ライブ配信・アーカイブ配信](#)



●大会記念品の販売

第79回国民スポーツ大会本大会(わたSHIGA輝く国スポ)の大会記念品を、大会協賛社であるミズノ株式会社の公式オンラインショップ(ミズノ公式オンライン)にて販売しております。大会の記念にぜひ買い求めください。

・在庫には限りがございます。ぜひお早めにオンラインショップをチェックしてお買い求めください。

・ソフトテニス競技会場のみ現地販売の予定がございますが、数量に限りがございます。

▼販売サイトはこちら

[わたSHIGA輝く国スポ](#) | [大会記念品](#) | [ミズノ公式オンライン \(mizuno.com\)](#)

日本スポーツマスターズ2025愛媛大会の開催

令和7(2025)年9月に愛媛県で日本スポーツマスターズ2025愛媛大会(JAPAN GAMES MASTERS2025 EHIME)が開催されます。

●開催日程

本会期: 令和7(2025)年9月20日(土)～23日(火・祝)

※上記期間の他、会期前実施競技が開催されます

▼日本スポーツマスターズ2025愛媛大会の大会情報はこちら

[日本スポーツマスターズ2025 愛媛大会](#)

●大会記念品の販売

日本スポーツマスターズ2025愛媛大会の大会記念品を、大会協賛社であるミズノ株式会社の公式オンラインショップ(ミズノ公式オンライン)にて販売しております。大会の記念にぜひお買い求めください。

・在庫には限りがございます。ぜひお早めにオンラインショップをチェックしてお買い求めください。

・オンラインショップのみでの販売となり、会場での販売はございません。

▼販売ページはこちら

[日本スポーツマスターズ | 大会記念品 | ミズノ公式オンライン \(mizuno.com\)](#)



【ご注意ください!】日本スポーツ協会および国民スポーツ大会の名を騙^{かた}ってライブ配信を装うフィッシング詐欺が現れています

現在、SNS「X(旧Twitter)」やインターネット動画共有サイト「YouTube」上などにおいて、当協会の名称およびロゴ、「国スポ」「国民スポーツ大会」「国体」「国民体育大会」等の名称を無断で用いて、大会映像のライブ配信を装うフィッシング詐欺がたびたび出現しています。

これらの投稿やコンテンツにおいては、ライブ配信を視聴するための条件として、外部サイトへの接続が求められ、さらに会員登録と称して、氏名やメールアドレス、クレジットカード番号情報の入力などが求められます。

しかし、これらは関係機関(警視庁等)からフィッシング(個人情報などを奪う詐欺)サイトであることが確認されております。

当協会が主催する大会でのライブ配信については次ページのとおり予定しているところですが、下記にない配信については当協会とは一切関係なく、フィッシング詐欺の可能性があります。

上記あるいは類似の不審なサイトやSNS投稿、覚えのないアドレスからのメールなどには十分ご注意ください。

▼当協会が主催する大会におけるライブ中継および映像配信について

1) 日本スポーツマスターズ2025愛媛大会

大会のライブ中継および映像配信は、予定しておりません。

2) 第79回国民スポーツ大会本大会(わたSHIGA輝く国スポ)＜会期前開催競技含む＞

●「JSPOTV 国スポチャンネル」<https://japangamestv.japan-sports.or.jp/>（無料）

のみで、ライブ中継および映像配信を行います。

●YouTubeやその他の映像配信サイトでは、配信いたしません。

3) 第79回国民スポーツ大会ブロック大会および同都道府県予選会

当協会による各大会のライブ中継および映像配信は、予定しておりません。

▼同様のケースは他の競技会や大会等でも生じており、警視庁でも以下のとおり注意を呼びかけていますので、併せてご参照ください。

●HP

<https://www.keishicho.metro.tokyo.lg.jp/kurashi/cyber/joho/fishing.html>

●X(旧Twitter)

https://x.com/MPD_cybersec/status/1598148881639874560

「令和7年度第1回女性スポーツサポート研修会」開催のお知らせ (9月29日申し込み開始)

女性の身体的特徴に応じた安全・安心な指導や、年代・ライフステージ・志向などにより変化する女性の動機・目的に合わせた働きかけができるよう、女性スポーツに対する理解を深めることを目的に、Zoomウェビナー形式の研修会を開催します。内容は、『女性スポーツ促進に向けたスポーツ指導者ハンドブック』に基づいて実施します。

一部の競技・資格を除いて、JSPO公認スポーツ指導者資格の更新研修の対象にもなりますので、女性のスポーツ指導現場に携わる指導者、競技者の皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

▼詳細(講演者・内容・注意事項等)はこちら

<https://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid1221.html>

▼ハンドブックはこちら

<https://www.japan-sports.or.jp/women/tabid1336.html>

■日時(18:00入室開始)

1コマ目: 令和7(2025)年10月29日(水) 18:30～20:15

2コマ目: 令和7(2025)年11月5日(水) 18:30～20:15

■参加料: 5,500円(税込)

※1コマ目・2コマ目合わせての料金となります

■定員: 500名(先着順)

■申し込み受付期間: 令和7(2025)年9月29日(月)～10月19日(日)

■申し込み方法:**【JSPO 公認スポーツ指導者の方】****▼My JSPO**

https://account.japan-sports.or.jp/sign_in

<備考>

本研修会の参加により、JSPO公認スポーツ指導者資格の更新研修を修了したことになります。
(一部の競技・資格を除く)

詳細は当協会ホームページ(<https://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid233.html>)をご確認ください。

※2コマで1回分の実績となります。1コマ目・2コマ目どちらか欠席した場合は実績となりませんのでご注意ください。

【公認スポーツ指導者以外の方】

下記URLからお申し込みください。

<https://online.npc-tyo.co.jp/event/112771/spGoOjd49z6e>

<本件に関する問い合わせ先>**【研修会の内容について】**

公益財団法人日本スポーツ協会 スポーツプロモーション部 プロモーション課

TEL:03-6910-5810 Mail:woman@japan-sports.or.jp

【日本スポーツ協会指導者資格の更新について】

公益財団法人日本スポーツ協会(JSPO)スポーツ指導者育成部

※My JSPOメニュー内の「Q&A・お問い合わせ」内のフォームからお問い合わせください。

【公益財団法人健康・体力づくり事業財団主催!!】 貯筋運動普及研修会（JSPO公認指導者更新研修）参加者募集中

貯筋運動は、加齢に伴い衰えやすい脚部をターゲットにした自重の筋力トレーニングで、いつでもどこでも行えるのが特徴です。

厚生労働省が公表した「健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023」でも、初めてすべての年代に筋トレが推奨されており、高齢者の介護予防にはもちろん、中高年者の健康づくりプログラムや、子どもたちのウォーミングアップにも活用していただける、導入しやすいプログラムです。健康・体力づくり事業財団では、総合型地域スポーツクラブにご協力いただき、貯筋運動ステーション・サテライトを展開するとともに、地域において貯筋運動を普及推進する人材育成を目的とした「貯筋運動普及研修会」を、今年度、全国6会場で開催いたします。

また、今年度より、健康づくりのための運動指導の基礎を体系的に学べる「健康づくり基礎研修eラーニング」を開設いたしました。健康づくり運動の指導を予定している方、基礎を復習したい方、ぜひご視聴ください。

【貯筋運動普及研修会】

<https://www.health-net.or.jp/kensyu/tyokin/fukyu.html>

「貯筋運動」の理念と基本的な動きを習得し、地域において普及推進する人材を育成します。日本スポーツ協会公認指導者更新研修。

会場名	開催日	開催会場	協力
新潟県湯沢町	9月23日(火・祝)	湯沢町公民館	NPO法人 ユースポ!
宮城県仙台市	11月16日(日)	東京エレクトロンホール宮城	-
熊本県熊本市	11月30日(日)	熊本市龍田地域 コミュニティセンター	龍田地域なかよし スポーツクラブ
山口県岩国市 由宇町	12月21日(日)	由宇文化スポーツセンター ・ゆうたん	NPO法人 ゆうスポーツクラブ
千葉県千葉市	2026年1月12日(月・祝)	千葉市美術館	-
栃木県宇都宮市	2026年2月11日(水・祝)	栃木県総合文化センター	

(申し込みはおおむね3カ月前から)

●内容 貯筋のすすめ(動画講義)

福永哲夫・鹿屋体育大学元学長／東京大学名誉教授

高齢者の筋力トレーニング、高齢者の教室運営の実際、貯筋運動の基本の動き 他

●受講料 5,500円(ハンドブック・普及教材、傷害保険、税込)

【健康づくり基礎研修eラーニング】

https://www.health-net.or.jp/kensyu/tyokin/kiso_e-learning.html

対象者の年齢や運動実践環境・種目を問わず共通して必要な健康づくり運動指導のための基礎知識および指導技術について学びます。

●開講期間(申し込みは各回1カ月前から)

<第1回>9月1日(月)～30日(火)

<第2回>11月1日(土)～30日(日)

<第3回>令和8(2026)年2月1日(日)～3月1日(日)

●内容 健康とは 運動生理学・機能解剖学他 5教科360分

●受講料 11,000円(税込)



《貯筋運動に関する問い合わせ》

公益財団法人健康・体力づくり事業財団 事業部 TEL:03-6430-9114

《申し込み》

<https://www.health-net.or.jp/kensyu/index.html>

《貯筋運動についてもう少し情報が欲しい方はこちらへ》

<https://www.youtube.com/watch?v=zOdmdhNmwwc>



こどもが悩みを打ち明けられる環境づくりに向けた 広報活動へのご協力のお願い

こども家庭庁では、こどもが安心して悩みを打ち明けられる環境づくりに向けた取り組みを行っており、ポスターや動画を公開しています。こどもの悩みの相談にぜひお役立てください。

▼ポスターは以下のリンクからダウンロードが可能です。

ポスターのダウンロードリンク※縦型はPDFデータ、横型はjpegデータとなっております。

●こども向けポスター

縦型 ([A1版](#) / [A3版](#) / [A4版](#) / [A5版](#)) [横型](#)

●大人向けポスター

縦型 ([A1版](#) / [A3版](#) / [A4版](#) / [A5版](#)) [横型](#)

■動画

※著作権の関係上、本動画の二次利用は不可となっております。

※活用していただける際には、こども家庭庁ウェブサイトの以下URL(※1)を引用する形またはこども家庭庁SNS公式アカウント(※2)投稿の引用・リポストにて周知をお願いいたします。

(※1) こどもの皆さんへのメッセージ動画

[こどものみなさんへのメッセージ動画 | こども家庭庁](#)

(※2) こども家庭庁SNS公式アカウント

X [こども家庭庁 \(@KodomoKatei\)](#)

YouTube [こども家庭庁](#)

Instagram [こども家庭庁 \(@kodomo.katei\)](#)

【参考:こども家庭庁HP】

[こどもの悩みを受け止める場に関するプロジェクトチーム | こども家庭庁](#)